



なんごく・こうち地方拠点都市



アクションプログラム

12

“自立への挑戦”はいま!

地方拠点都市整備法が制定され、「なんごく・こうち地方拠点都市」が地域指定を受けたあと、全国に先きがけて、基本計画の策定承認がされて二年になろうとしています。
その内容と進捗状況を十二回シリーズで、ご紹介してききましたが、今回が最終回になりました。

個々が光り 全体が輝く

▲ なんごく・こうち地方拠点都市地域の十か市町村が、それぞれ役割り分担して、個々が光り、全体として輝く、まちづくりをしてきています。が、どんな進み具合ですか。

重点的に実施すべき八か所の「拠点地区」のうち、高知駅周辺（高知市）は「R土讃線高架化（馬）」が昨年、事業採択を受けて、沿線住民の合意を得るため地元説明などに入っています。同時に土地区画整理事業（高知市）も同年に事業採択を受け、地元推進組織と確認書を交わして早期着工に向けて積極的に取り組まれています。土佐山田北シテイ地区（同町）の土地区画事業は調査を実施中。泰山公園整備は約九五割の用地取得、都市計画道路高知山田線（県）は事業実施中。そして土佐山

田学園都市整備（同町）は高知工科大学が平成九年四月開校に向けて進められています。土地区画は調査を実施中です。

▲ 手結港マリントウン整備地区は県が「工事凍結」をしていますね。

サンゴ調査のため工事を凍結して二年になります。「振り出しに戻り、慎重に検討することになってい

若者定住のための住宅を建設中です。ダム湖周辺公園などの整備は平成七年度以降になります。

南国オフィス

パークが起工

▲ 南国市の産業業務拠点と重点的に整備すべき拠点地区の進捗状況は、

まほろばの里アルカディア整備地区（南国オフィスパーク）は平成四年度に通産省の指定を受けて産業業務施設用



1月1日に着工されたオフィスパークの起工式

滑化調査、同五年度に地域振興整備公団の事業承認、用地買収をはじめ、同六年四月公団の現地事務所として高知開発所が開設。第三セクターの南国オフィスパークセンター（社長・大町南国市長）も発足。今年一月三十一日造成工事の起工式を行いました。産業業務施設は全国二十六か所で実施されており、地域振興整備公団が事業主となっているのは南国市と大村市（長崎県）北上市（岩手県）の三か所、全国のトップをきって

「起工式」にこぎつけたものです。完成は平成九年度の予定で、それまでに一部分譲を開始する計画です。起工式当日は企業立地第一号となった西四国銀行の電算センター、味ヤクオとの調印がされました。

もう一つの「拠点地区」であるザ・こめんパワーアップシティ整備地区は後免町市街地再開発一・九をモデル地区として先行実施。地元準備

組合による土地・建物の権利調査を終わり、計画の基本方針をまとめて再開発ビルなどの保留床の分譲を検討中です。都市計画道路高知南園線は東工業高校付近から約六百メートルを先行実施する計画で、一部用地買収に入っています。吾岡山文化の森公園は基本計画ができ、今年から用地買収に入ります。

▲ 少しずつ着実に進められていますね。

拠点都市に指定されたからすぐ「建物が建つ」というわけではありません。基本構想、基本計画、各種調査、有利な財源を引き出すための国の指定や事業採択、起債などの財源対策、用地買収、用地造成などの手順を経て、建物の建築となりますから、「大型プロジェクトは十年かかる」といわれています。二十一世紀に向けて拠点都市の整備は一歩一歩進められています。

（おわり）